

Tokyo GENGETSU

東京弦月会会報 No.26 2019年7月

第37回

東京弦月会同窓会・総会

令和元年8月31日(土) 16:00~19:00

帝国ホテル 富士の間

日南海岸の朝日
Photo/ MORIMORI

東京弦月会HP <http://www.gengetsu.ne.jp/>



未来から託された宝もの……！

■ 会長 藤田 洋一 (12回生)

昭和という時代が終焉した1989年1月7日は私の47回目の誕生日だった。

早朝、デスクからの電話で慌ただしく出社。社内はある種の緊張感に覆われていた。テレビ各局は通常編成を自粛しCMも公共広告にする特別編成を敷いた。モニターは終日、昭和天皇の映像を映し出す……。誕生日の日に昭和が終わりか……と感慨一入の想いがあった。

翌8日から平成の時代が始まる。当時、私は幼児教育番組「ひらけ！ポンキッキ」を担当していた。イギリスBBCから『機関車トーマス』や『ピーターラビット』を導入。機関車トーマスはアツという間に子どもたちのアイドルとなり一大ブームを呼んだ。また、Dr.スランプアラレちゃんやドラゴンボールの作者・鳥山明氏と組んだ番組初の連続人形劇『アップルポップ』という作品は、オオカミの家族が主人公のホームドラマ。狼は一夫一婦制で家族の繋がりが強いと言われている。家族という形態は幼児が最初に体験する社会生活だ。家族の日常を

通して暮らしの中のルール、事の善し悪しやしつけなどを理解するようになる。

一方、『機関車トーマス』ではトーマスが仲間と力を合わせて仕事をしたり、時にはケンカもしたりすることを見せることで、子どもは自分と友達とは違うんだ、同じじゃないんだということを知り、他人への思いやりや他人の痛みに寄り添うようになる。

「ひらけ！ポンキッキ」では、8つのカテゴリー〈自然と人間〉〈社会生活〉〈ことば〉〈記号の理解〉〈数と量〉〈関係と分類〉〈生活としつけ〉〈感覚とリズム〉を設定、番組のねらいと構成を明らかにした。これらのカテゴリーを様々な手法で番組に織り込み、子どもたちの主体的に情報を処理する能力を育て、質のよい知的構造の形成と進化を図るべく制作した。そして同じコンテンツをなんども繰り返し放送することで子どもたちに吸収してもらおうのである。子どもたちの目は正直です。遠慮会釈がありません。面白くなければそっぽを向いてしま

ます。

ディレクターは堅苦しいカリキュラムに、より深くより丁寧に取り組み、いかに楽しくおもしろく見せられるかに腐心する。そしてそれらが番組の中で実際に機能しているか、効果をあげているかを検証するため幼稚園や保育園の現場に出向き、園児の前でプレビューして反応を記録し、番組にフィードバックする。こうした努力が番組を支え、子どもたちに夢を与え、母親からの高い支持を得ることができたと思っています。

子どもは、私たちが未来から託された宝ものだ。子どもたちは未来を創る、未来を支える宝なのだ。今年5月、新しい御代「令和」を迎えた。令和時代が子どもたちにとって素晴らしい未来になるように、わたしたちは……。

かあさん知らぬ草の子を、なん千万の草の子を、土はひとりりで育てます。草があおあおしげったら、土はかくれてしまうのに。

(金子みすゞ『土と草』)